

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104617		
法人名	有限会社 東雲		
事業所名	有限会社 東雲 グループホームつつじが丘しのため		
所在地	長崎市つつじが丘4-15-1		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中にあり、利用者の立場になって考え、安心して楽しい生活ができるようにまた、生活環境を整えることで事故防止に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はホーム理念を支援の大きな柱とし、利用者の人権と歩んだ人生を尊重して分け隔てなく接する姿勢である。特に「その人らしさ」を9通り実践するために、生活歴を細かに収集し、従来自宅で過ごしてきた環境に少しでも近づくように支援している。日々の介護記録から、その支援状況と利用者の思いも窺える。職員はチームケアの重要性を把握し、排泄や入浴など利用者個別に支援マニュアルを作り、常に同じサービスを提供している。馴染みの人間関係では、ケアマネージャーを中心に職員が家族との絆を取り戻せるよう配慮したり、身寄りの少ない利用者も寂しい思いをしないよう取り組んでいる。利用者同士相手を思いやり、職員と共同体として安心した暮らしが確保できる環境である。利用者と職員の会話や笑い声が多いのが特長のホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社 東雲 グループホームつつじが丘しのめ
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱和し日々の介護の中で確認しあい、入居者の思いにそえるよう努力している。	理念をホーム内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和することで、職員は共通意識を持って利用者の支援を行っている。特に、理念の一部「人生を尊重」「その人らしく」を支援に活かしている。利用者の得意なことや従来の生活が継続できるよう、見守りながら支援の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみステーションの掃除、市民大清掃への参加、夏祭り会場設営の手伝いを行い。近所に買い物にいくと顔見知りの方が利用者を見守ってくれることもある。	管理者が、地域祭りの会場設営やごみステーションの清掃等、地域との係わりを持ちながら基盤を築いている。保育園の夏祭りに招待され、利用者は園児との触れ合いを楽しんでいる。散歩中に挨拶を交わしたり、買い物先で近所の人からの声掛けや見守りなど、日常的な近所づきあいがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の業務で忙しく地域の人々に発信する余裕も予定もないが相談にすれば受けいれます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活や事故報告、改善策を実際に見ていただき認知症介護の実態を理解していただいている。	年に6回規程メンバーで開催し、活動やヒヤリハット、研修を報告している。また毎回、火災訓練後の課題抽出があり、解消に繋げるなど運営推進会議をサービス向上に活かしている。家族の参加があり、参加できない家族には議事録を発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことを質問している。	行政とはホームの近況報告や相談等連絡を取っている。行政から届いた衛生面等の書類を差し替え、真摯に取り組んでおり、各種研修は職員が受講している。包括支援センターの紹介で認知症サポーターの研修施設として提供しており、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部、外部研修に参加して知識を高めている。また生活環境を整えることで身体拘束を行わない。	外部研修への参加と共に年に1、2回内部研修を行い、身体拘束となる行為の内容と弊害を学んでいる。職員のケアが不適切な場合、互いに注意し合っている。利用者の安全を確保するため、生活環境を検討し、拘束しないケアに努め、利用者は自由に行動し、職員は見守り支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に参加して知識を高めている。相手の立場に立って考え、自分がされたくないことを相手にするなとあたりまえのことを常日頃管理者から職員に伝えている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近では、行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、その場または後日質問に答え、理解、納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時などに話を聞くように努めている。	利用開始時に、苦情処理体制及び意見箱の活用について、家族へ説明している。家族の訪問時の面談や運営推進会議の議事録郵送などホームの状況を報告している。家族が要望や意見を述べやすい環境を作っている。家族からの意見はすべて職員会議で公表し、サービス向上に向けて話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役員兼管理者も同じフロアで同じ業務を行っており職員の意見を業務に反映できるよう努めている。	毎月の職員会議や日々の申し送りなどで職員は意見・提案している。また、管理者やケアマネジャーが職員一人ひとりに寄り添いながら、話を聞き取っている。シフト作成や外部研修への受講は、職員の希望を取り入れており、職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を利用して賃金を改善し、高齢の職員の夜勤の回数を減らすなど反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、内部、外部研修を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が他事業者を付き合いがある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収取に努め入居後の生活に安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム側から家族に話しかけ、家族と話しやすい雰囲気をつくるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族との面会の際に見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知恵を借り調理や他の家事等に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護拒否の激しい利用者の方の家族に協力していただき入浴を促したり、外食へお連れしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や美容院へお連れする。年賀状を出すなどして関係が途切れないように努めている。	利用者とのさりげない日常会話や家族の話を基に生活歴を収集し、職員間で共有している。家族や知人の訪問は自由で、居室やリビングでゆっくり過ごしている。友人との外出や、家族の協力を得て墓参りに出掛ける利用者もいる。職員が補助しながら年賀状を書いたり、電話するなど関係が断ち切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も努めているが、自然と利用者同士の人間関係が構築されていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやりとり、お墓参りなど。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々、思い思いのくらし方をされているので、じゃましないよう要望にそうよう努めている。	居室で過ごしている時や入浴、夜勤時など、職員は利用者一人ひとりとゆっくり話している。職員は得た情報を、施設介護記録に記入し情報を共有している。家族へも利用者の思いを伝えている。会話が困難な場合は、生活歴を基に思いを汲み取っている。毎日散歩がしたい、好きな美術を見に行きたいなど、個別意向の実践事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が利用者の詳しい生活歴を把握していることは少ない。入居後(面会時友人、親戚など)からも情報を収集し生活の援助に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方を観察し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、医師、時には本人を含め話を聞き、それをもとに職員間で話し合い計画作成をしている。	利用開始前、暫定プランを作成し、その後1、2週間で職員が気づきを基に、長期6ヶ月・短期3ヶ月で介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直し評価を行い、入退院時は、随時プラン変更がある。利用者自身が介護計画を見ることもあるため、分かりやすい書面である。家族の希望も含め作成し、同意を得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分からないことを分からないままにしないで職員間で共有し介護計画にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に応じお菓子を食べに出かけたり、県立美術館へ絵画を鑑賞に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容院の利用、スーパーでの買い物の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にホームの協力医療機関の医師に主治医を変えてもらっている。かかりつけ医師を継続する場合は、家族に通院をお願いしている。情報交換は、密に行っている。	ホームと協力医との連携体制を家族へ説明し同意を得て、主治医を変更している。歯科受診など専門科受診は家族対応とし、受診結果は家族から報告を受けている。受診内容は個別に記録し、職員も情報を共有している。協力医は24時間対応であり、毎週往診がある。往診時は健康管理表を基に利用者状況を的確に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と密な情報交換ができるよう頻回に利用者を見舞っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族、医師と話し合い希望に沿うよう努めている。	利用開始時、看取り指針を基に家族へ説明を行い、書面で同意を得ているが、現在まで終末期を迎えた利用者はいない。家族とは連絡を密にしており、利用者の状況に応じて主治医に相談し、本人・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。職員は、看取り研修を受講しており、自己研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを掲示しており、急変時に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	長崎市の指導どおり訓練を行なっている。 警備をALSOKに依頼している。	年1回、消防署立会いの夜間想定火災訓練を行っている。毎月自主訓練は、出火場所・時間、誘導方法など様々な想定で実施し、訓練には民生委員や家族の参加がある。訓練後は課題解消に取り組んでおり、近年ベランダを増築し、避難経路を確保し、備蓄も備えている。自然災害マニュアルは作成中で、訓練実施はこれからである。	自然災害マニュアルの完成と、勉強会にて災害に対する心構えを職員共有することが望まれる。災害時にどういう行動を取るか、職員の不安を払拭するために、訓練の継続に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室の時は、ノックをするか声をかける、また相手のプライバシーを損ねない対応に努めている。	個人情報 は所定の場所に適切に保管している。写真記載は、本人・家族に同意を得ており、職員の守秘義務も周知徹底している。人権や尊厳への配慮については、職員は具体的に確認している。特に名前の呼び方、居室へ入室時など誇りを尊重している。居室ドアのガラス窓にカーテンや目隠しを施し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張をしない利用者の場合は、口を開くまでじっと待つ。それでもダメな場合は、態度、行動、表情から思いをくみ取るよう努め、事故決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など決まっているが無理強いのは、せず可能な限り待つ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服を一緒に選んだり、化粧水を勧めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞きメニュー作成時に活かし、食事の下準備、片づけを手伝ってもらう。	職員が毎週、利用者の嗜好を聞き取り、献立を作成している。嚥下に合わせた盛付けや食事時間など個別に対応している。職員は、食材の下準備や味見など調理にかかわる利用者の力を発揮できるよう工夫している。季節行事や誕生日には特別な献立を提供したり、希望の飲食店で外食するなど、普段とは異なる食事の楽しみも支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、家族と連携し食事摂取量の少ない方には、経口補助食品をまたミキサー食を受け付けられない方には、誤嚥覚悟でキザミ、普通食をお出しして声をかけ食べていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	みがき忘れが無いように利用者がみがいた後に職員が仕上げをし、自立している利用者には義歯を外して洗うように援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔や尿、便の量を把握し自立へ向けた支援を行っている。	トイレでの座位排泄を支援している。職員は排泄チェック表で各利用者の状況を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。自立の場合は、さりげなく見守っている。病状に応じ尿量を確認し、健康を管理している。職員は排泄支援状況から、パッド類の使用頻度やサイズ、介助方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動。さつまいも、自家製ヨーグルトを摂取していただき。必要に応じ下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否が激しい利用者入浴するよう雰囲気づくりに気を付けている。また、湯温の調整、順番に気を付けている。	リフト浴の設備がある。週3回入浴日を決め、湯船に入りゆっくり入浴を楽しんでもらうよう時間を配分している。浴室に各利用者ごとの入浴支援方法を掲示し、常に同じ支援が受けられるように工夫している。拒否時は無理強いしない。ゆず湯や菖蒲湯、職員との会話など、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スペースに限りがあるがソファベッドや居室で昼夜逆転しない程度休んでいただく。また、室温や湿気、臭い、ふとんなどに気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より職員へ薬の効能などについて説明し、職員も理解するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花、散歩などなど好きなことができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ラーメン、絵画鑑賞など希望があればお連れしている。	利用者の希望で、美術館での美術鑑賞や希望の飲食店での食事など職員が個別に対応している。選挙や墓参りは家族の協力を得ている。車椅子の利用者用にリフト車両があり、ドライブを楽しんでいる。週3回買い物ドライブがあり、全利用者が出掛けられる工夫し、季節毎に全員で花や風景を楽しむ外出を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯のため原則、金銭を預かってないが、紛失してもホームが責任をもたないない条件で少額の金銭を所持している利用者もいる。買い物で金銭を使う場合は、援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り、吹き抜けから太陽光を取り入れていごち良く過ごせるように工夫している。	リビングは吹き抜けからの採光で明るく、玄関には季節を感じる花が生けてあり家庭的である。大きなテーブルに集い、歌を歌ったり、風船遊びなど、利用者と職員の大きな笑い声が響いている。利用者同士が楽しく過ごせるように席の配置を工夫している。職員が毎朝掃除機で清掃し、温度を管理し居心地のいい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになるスペースが居室しかないが気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように席の配置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使いなれた物を持ってきてもらうようお願いしている。	寝具は持込みであり、他に筆筒、テーブル、テレビなど使い慣れた物を配置している。壁には、写真が飾られ家族の繋がりが感じられる。ベッドの向きなど本人と相談しながら決めており、畳の部屋には、防災カーペットを敷き、車椅子でも対応ができる工夫がある。職員が毎朝清掃しており、清潔で過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレに手すりを取り付け、ベッドの位置、高さを調整するなど工夫している。		